



スポーツイベントと持続可能性

SUSPON代表、NPO iPledge(アイプレッジ)代表 羽仁 カンタ

SUSPONが提案する東京2020大会のサステナビリティ 五輪・パラリンピックを契機に参加型社会の構築を

東京2020大会にNGO/NPOからもインプットを

筆者は2014年ごろ、洗って繰り返し使用できるリユース食器の導入を全国で行っている仲間と、五輪・パラリンピックにリユースカップを導入したいと話したことがきっかけで、過去の五輪・パラリンピックの環境対策を勉強するようになりました。

そして、2020年の東京五輪・パラリンピック（東京2020大会）を、リユース食器の導入だけでなく、多角的な視点から持続可能な大会にするための組織を形成しようと多くのNGO（非政府組織）やNPO（非営利活動法人）に呼びかけ、2016年5月、「持続可能なスポーツイベントを実現するNGO/NPOネットワーク」が立ち上げられました。このネットワークは通称SUSPON（サスポン）と呼ばれています。

環境など世界的な課題をテーマにした国際会議などと比べると、五輪・パラリンピックは圧倒的に注目度が高いイベントです。だからこそ、NGO/NPOが関わることに価値があるし、変えていくことができるかもしれないという思いを持った仲間が

集まっています。

SUSPONには今年11月現在、18団体が加盟しています（表）。SUSPONの中には、「ごみゼロ」、「生物多様性」、「責任ある調達」、「エネルギー」、「ボランティア」、「平和とスポーツ」というテーマごとの部会のほか、様々な若者団体が参加する「SUSPON ユース」を加えた7つの部会で活動しています。それぞれ視察やディスカッション、勉強会などを開催し、部会ごとに東京2020大会への提言を行っています。

SUSPONが強調する3つの視点

（1）市民参加

東京2020大会は、市民、企業、行政が参加し、日本だけでなく、地球の新しい未来創造につなげることができると考えています。大会開催までのプロセスや実施内容にNGO/NPOが影響を与えていくことで、より開かれ、透明性のあるものになっていくと思っています。また、多くの人たちが参加できる仕組みをつくることによって、参加型社会の構築につなげていければと考えています。

（2）横のつながりを活かす

環境だけではなく、人権、福祉など国内外のNGO/NPOが持つネットワークや横のつながりを活かしていけば、幅広い視野で課題や問題点をとらえることができ、解決につなげていくことができると思っています。

（3）対話の場をつくっていく

行政や企業と対立するのではなく、国際的なネットワークや様々な経験を活かし、東京2020大会開催に向けた提案、対話の場をつくり、お互いを尊重しながら協力し合っていくことが、持続可能な未来に向けた唯一の道と考えています。

それぞれの視点について、少し詳しく説明しましょう。様々なNGO/NPOが東京2020大会に参加することは「市民参加」を促すという面からも意義があり、もっとも大切なことだと考えています。多くの市民が持続可能な社会づくりに参加できる仕組み、つまり「参加型社会」を五輪・パラリンピックを契機につくっていきたい。その際、環境だけでなく、人権、福祉など国内外のNGO/NPOが持つネットワークや横のつながりを活かし、幅広い視野で問題を洗い出していけば、解決への糸口

が見つけやすくなると考えています。前述した通り、SUSPONでは対話の場をつくることに力を入れています。例えば、NPO、企業、個人、東京都の環境局やオリンピック・パラリンピック準備局、そして東京五輪・パラリンピック競技大会組織委員会(東京2020組織委員会)の持続可能性部にも参加いただき、ディスカッションする場をつくったり、年1回のペースで、一般・メディア向けの公開シンポジウムを開催したりしています。

NGO/NPOと行政や企業が対立するのではなく、どうやったらもっとみんなが良い方向に進めるのか、平等な立場で直接対話しながら課題解決していくことを目指しています。

SUSPONの活動

SUSPONの具体的な活動を少しご紹介しましょう。ごみゼロ部会では、「ごみゼロ」の東京2020大会を目指すべく、来場者が親しみやすく共感できるような仕組みの1つとして、リユース食器の導入を提案しています。リユース食器は使い捨て容器とは違い、洗って繰り返し使用できる食器のこと。丁寧に扱えば、200回以上繰り返し使用可能です。

また、全国にあるリユース食器の洗浄施設の多くは、社会福祉施設が担っており、リユース食器の利用は環境と福祉をつなぐ新しい取り組みとしても注目を集めています。

ボランティア部会では、全国で多くのボランティアをコーディネートしてきた団体のノウハウをまとめた冊子「持続可能な未来をつくるボランティアのためのガイド」を発行しました。課題解決に向けて、自ら考

え、能力を発揮しようとする力は、ボランティア活動を通して身につけることができると考えています。

五輪・パラリンピックでは多くのボランティアが必要になります。多くの人が、多くの時間を費やして関わることができる一生に一度の機会だからこそ、五輪・パラリンピックが学びの機会を得る場となるよう提言しています。

東京2020大会では、約5000個の金・銀・銅メダルを全国各地から集めた小型家電・リサイクル金属でつくる国民参画型の「都市

鉱山から作る！みんなのメダルプロジェクト」や、大会で使用する電力に福島県の再生可能エネルギーを使うなどの取り組みが、市民発信でも進められています。国の主導だけでなく、市民一人ひとりが共感して参加し、積極的に行動できるような社会構築につながればとも考えています。

SUSPONではほかにも多くの情報提供や提案を行っていますが、実際のところ、行政や企業と協働して何かを実現するところまではいっていない現状もあります。私たちが行っている提案は、机上の空論でも理想論でもありません。多くのNGO/NPOが長年積み上げてきたノウハウに基づき、地に足をつけた現実的な提案を行っているつもりです。

表 SUSPON加盟団体(2018年11月現在)

- NPO iPledge(アイプレッジ)
- A SEED JAPAN
- インターナショナル世界平和の響き
- NPO地域環境デザイン研究所ecotone
- NPO法人ezorock
- 国際環境NGO FoE Japan
- 環境パートナーシップ会議(EPC)
- 認定NPO法人 環境リレーションズ研究所
- Climate Youth Japan (CYJ)
- グリーン購入ネットワーク(GPN)
- グリーン連合
- CSOネットワーク
- 持続可能な社会をつくる元気ネット
- 水Do!ネットワーク
- 認定NPO法人 スペースふう
- 地球・人間環境フォーラム
- 日本自然保護協会(NACS-J)
- 日本野鳥の会

もちろん提案だけではなく、私たちNGO/NPOも、ステークホルダーの皆さんと一緒に汗をかき、一緒に事業に取り組んでいこうという強い思いを持って行動しています。多くの方たちと一緒に協働し合うことによって、持続可能な五輪・パラリンピックにしていくことは可能だと思っています。

ぜひSUSPONの存在と活動を知っていただき、皆さんとともに東京2020大会を世界に恥じない大会に仕立てていきたいと考えています。

△
SUSPONの加盟団体が持つ、東京2020大会などのスポーツイベントを持続可能なものにするための知見や考え、提案などを連載で紹介していきます。■